

光岳山行報告

メンバー：CL 田中・SL 澤田淳（食担）・松本(会計)・和田・江橋(記録)

日時：2017年8月5日(土)～6日(日)（前夜発）

コース：易老渡～易老岳～光岳小屋(テン場)～光岳～光岳小屋～易老岳～易老渡

山行タイム：8/5(土) 晴れのち雨 易老渡 7:30⇒面平 9:05⇒易老岳 12:45⇒三吉平 13:50
⇒光岳小屋 15:30

8/6(日) 晴れのち曇り テン場 5:30⇒光岳 5:40⇒光岩⇒光岳⇒テン場 6:40
⇒易老渡 13:05

【報告】

8/4(金)21:00 千葉市役所駐車場へ集合し出発。今回のメンバーは、大ベテランのCL Tさん、SL Sさんと、テン泊初体験の今年の新入Mさん・Wさんと私。Wさんは本格登山も初体験。

京葉道幕張IC～中央道飯田IC へ向かう。首都高から中央道分岐部でいきなりの渋滞。飯田までの遠い道のが思いやられる。。。

その後は幸い順調に進み飯田ICから道の駅かぐらの湯駐車場へ到着したのは2:30 飯田は遠い！

台風が近づいているが、飯田の空はきれいな星空 4名はテントを使わず店の軒下を借りて寝袋で野宿。Wさんは車中泊。朝6:00にタクシーが迎えに来るが4:00のタクシーもあり出発の準備をする人もいて私はなかなか寝付けなかった。空が明るみ始めた頃、頭上で鳥のさえずりがやけに激しい。よく見るとTさんの頭上の軒下に子ツバメがたくさん居て親鳥が運んでくる朝食を待っていた。Tさんへの落下物は無かったようだ。

8/5(土)5:00起床 朝食と身支度を調べ6:00の乗合いタクシーで出発。車は、この温泉の駐車場に無料で止めさせてもらえる。タクシーを利用しない場合、登山口手前の駐車場から1.5hr歩くようだ。タクシー代は1台15,000円(乗車定員9名max)ほど。

途中、歩く人たちの駐車場があり数十台の車が駐まっている。そのすぐ先に鍵の掛かるゲートがあり、運転手さんが自分で開閉していた。7:00 易老渡登山口到着。トイレ(移動式あり)と準備運動を行い7:30 赤い橋を渡り出発。いきなり急な登りが始まる。天気はよいが、千葉と同様に昨日までの気温が高くなかったのと樹林帯歩きの為それほど暑くはない。熊避けにも効果があるということで蚊取り線香を腰にぶら下げ歩く。面平までの目安表示があり、10になると第1目標の面平へ到着するらしいが、ひたすら登りが続きなかなか数字が増えない。ブヨもたくさんいる。

面平到着9:05。長かった。まだ易老岳までの道のりの1/3だ。地図上では、易老岳まで更に急な登りが続くようだ。

今度の表示は、30番で易老岳到着のようだ。帰りには滑りそうなガレ場、石段、木の根、砂場が続く。易老岳を超えればその先の登りはそれほどないと皆で励まし合い歩く。さっきよりも更に数字が増えない。しかも次までの間隔が長い気がする。先を歩いていた重そうなザックを背負っていたパーティーの中の女子が少しバランスを崩したのかザックをドゥスと下ろす。信州大学の山岳部のパーティーで、ひとり40kgのザックを背負い12日間の縦走だそう。一人だけいた女子も40kgとのこと。私には無理そうだ・・・

やっと易老岳到着。これまでもずっと樹林帯だったが、頂上も全く展望がない。。。



ここからは、高低差なく歩けるのかと思いきや、下る、下る。そんなに降りたら下に着いてしまうのではないかと思うほど下る。実際には200mほどだったようだ。少しずつ登り稜線らしきところを歩くが、木で見晴らしは今ひとつだ。午後になるとやはりガスが湧いてくる。途中の花を楽しみながら進む。



テン場前のひと登りはまた急登だ。私とMさんは、かなり疲労気味だ。Wさんはやはり若さのおかげか足取りは問題なさそうだ。15時ごろから雨が予想されていたが、少し前から小降りだが大粒の雨が降り出してきた。カップを羽織り進む。

水場に到着。テン場まであと20分だ。美味しい水で喉を潤し、夕食用の水を汲み出発。15:30 テン場到着。後から来る信州大学のスペースを考えると、テン場はいっぱいだ。小降りの雨の中テントを準備。今回は、3人用と2人用の2張を使い、間をブルーシートでタープ上につなぎ調理場荷物置き場として使う。CLのナイスアイデアだ。



夕食の準備をしながら担いできたビールで乾杯！うまい！！ 水の入ったプラティパスに挟んでおいたら飲み頃に冷えたようだ。でも、今回のメンバーのMさん、Wさんは飲めないそうだ。

夕食はウナギ美味しかった。ウィスキーと焼酎で宴は続き寝たのは何時でしょう？私は全く記憶がない???



8/6(日)3:30 起床 空は素晴らしい星空だ。荷物を整理し、朝食、テント撤収後、荷物をそこにデポし5:30 光岳へ向け出発。小屋前からきれいな富士山と素晴らしい雲海が見える。苦勞して登ってきたご褒美だ。

5:40 光岳到着。100名山のひとつを制覇だ。しかし、全く展望がない。なぜここが100名山なのだろう???

7分で光石の表示。タクシーの時間を変更するというCLを残し、4人で光石へ向かう。しかし意外に遠い、石もなかなか見えない。

5:50 光石到着。石ではなく岩という感じだ。どうということはない岩だが、上に登ると景色は最高。この岩は見る角度によっては光るのだろうか？下を見ると急峻な崖のようだ。

光岳に戻るとCLがブヨに囲まれていた。。。電話も通じなかったとのこと。小屋前からは電話が通じタクシーの時間を14:00に変更する。

6:40 荷物を持ってテン場出発 下山開始。まもなくガスが湧いてきて帰りもガスと樹林で展望なし。花を眺めながら歩く。昨夜の雨もありやはり下りは滑りそうだ。足下に神経を集中しながら下る。易老岳からは、30からのカウントダウンが始まる。下りは楽に降りられるかと思いきや意外に数字が減らない。何度か足を滑らせながらあと残り 60 分地点で最後の一服。思ったよりハードな下りだ。

しばらく歩くと W さんが膝を折り立ち上がれず、膝が痛いという。初めての本格山行で山の神様の洗礼を受けてしまったようだ。

CL の手早いテーピングと S さんの漢方薬を飲み、荷物を皆で分散し、CL が残りの荷物と W さんのザックを担ぎ、W さんは CL から山では、足が折れても歩くという強い意志で歩けと鼓舞されながら M さんのストックを借り再出発。大丈夫そうだ。

13:05 無事易老渡到着。タクシー利用でなければ更に 1 時間以上歩かなくてはならない。。

天然水で顔を洗い少しリフレッシュ。上と違い水はやはり生ぬるい。

タクシーの同乗者 2 人が到着するのを待ち 13:45 出発。14:45 車を駐車した道の駅かぐらの湯に到着。タクシーのドアを開けると全くの別世界が我々を待ち受けていた。空はギンギラギン気温はきっと 35°C 以上はあるのではなかろうかと思われる。暑〜い!!! びっくり。タクシーの 1 時間で現実の世界へ引き戻されたようだ。

かぐらの湯で汗を流し、食事をし帰葉。中央道はご多分に漏れず 20km の渋滞、千葉市役所に着いたのは 23:00。皆さんお疲れ様でした。

～ 以上 ～

